

「躰（しつけ）」を考える  
－美しい「立ち居振る舞い」と敬語を含む「言葉遣い」－

開倫塾

塾長 林 明夫

## 1. はじめに

日本の教育の最大の問題の一つは、「躰」（しつけ）であると言われて久しい。そこで、今日は「躰」とは何かを考えます。

## 2. 「躰」を考える

- ①「躰」とは、「礼儀作法」のことで、その内容は、美しい「立ち居振る舞い」と敬語表現を含む「言葉遣い」です。
- ②「躰」つまり、「礼儀作法」の第一は、「立ち居振る舞い」です。  
「立ち居振る舞い」とは、「他人の眼に見える体の動きを最も美しくする作法」のことです。日本舞踊をはじめ、茶道、華道、書道、剣道、合気道、柔道、少林寺拳法などを極めつけた方々には、立ち居振る舞いが際立って美しい方が多く見られます。
- ③「躰」つまり、礼儀作法の第二は、敬語表現を含む「言葉遣い」です。敬語表現を含む「言葉遣い」とは、「他人の耳に聞こえる言葉を最も美しくする作法」のことです。親や小学校、中学校の先生の大切な躰教育の一つが敬語表現を含む「言葉遣い」を子ども達に身につけさせることであると私は確信します。敬語を正しく使用する人は、「品性」を感じさせます。
- ④戦国時代に伊達政宗によって、ローマに派遣された少年使節たちの立ち居振る舞いは、ローマの識者に高く評価されたそうです。日本の子どもは、十歳でも国を代表する使者の役割を果たす判断と思慮があると賞賛されたようです。
- ⑤親や小学校、中学校の先生は、子どもに様々な機会を活用し、美しい立ち居振る舞いと敬語表現を含む言葉遣いを身につけさせて頂きたいと希望します。
- ⑥日本舞踊、茶道、華道、書道などは、日本文化の極地でもありますので、親や先生も率先して身につけ、子ども達にもその素晴らしさを伝え、慣れ親しむことを大いに奨励すべきであります。
- ⑦柔道、剣道、合気道、少林寺拳法、太極拳など、子どものころから一生かけて取り組むべきであります。

上記以外でも、ありとあらゆるスポーツは、礼に始まり礼に終わります。コーチや監督、審判に対しては正しい敬語表現を含む言葉遣いが欠かせません。スポーツに励むことは「美しい立ち居振る舞い」と「敬語を含む言葉遣い」を身につけることに通じます。

### 3. おわりに

日本の教育に最も欠けている「躰」（しつけ）つまり「行儀作法」を「美しい立ち居振る舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」と考え、文化や芸術、スポーツに親しみながら身につける方法を考えてみました。

どうか、御自分のみならず、子ども達に「品性」を身につけさせるためにも、「躰」についてお考え頂きたく、御両親様と小中学校の先生方、様々な分野の先生方、コーチ、監督の皆さまにお願い申し上げます。

(2003年5月2日記)

\* この文章の内容は次の本を参考にさせていただきました。

中川八洋・渡辺昇一著「教育を救う保守の哲学」

徳間書店 2003年3月31日刊 P19～35

**御参考** 次の松井選手の記事を御参考まで御覧下さい。